

のろし 平和の狼煙

過去を想い未来へ平和をつなぐ憩いの展望台

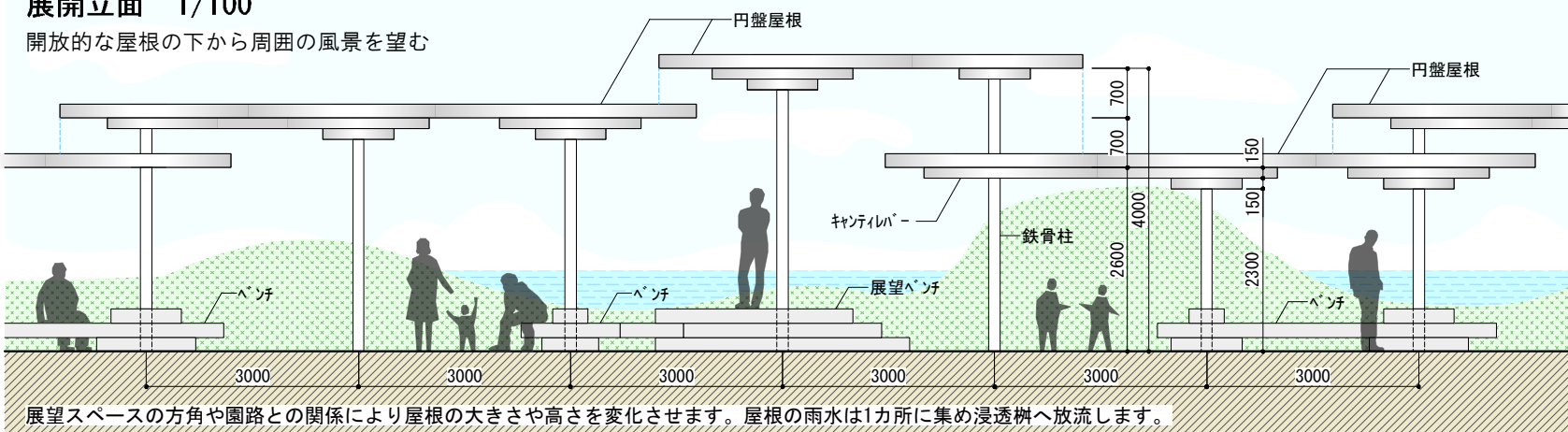


展望スペースから那覇方面の眺め。変化のある屋根が大きな陰をつくり、様々な来訪者を休憩所に引き込みます。

海軍豪公園にある高台は、水平線を見渡せることから、首里王朝時代には東シナ海からの船の入港を知らせる「火番森」があり、大戦末期には日本海軍の司令部豪として利用されました。現在は眼下に広がる活気ある街並みや、喉かな海と空を眺められる展望台となっています。この場所に過去の風景や戦争の記憶とともに今ある平和な世の中を願い、空に昇る狼煙をイメージした屋根が大きな陰をつくる休憩所を提案します。屋根の下で風と光を感じ、景色を眺めながら平和に想いを寄せる展望台となります。

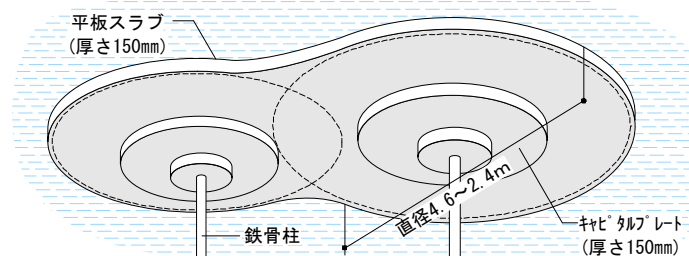
展開立面 1/100

開放的な屋根の下から周囲の風景を望む



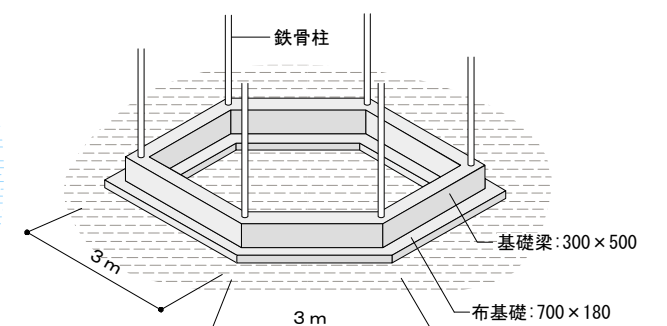
構造計画・施工計画

立地環境を考慮し、塩害に強く意匠性と耐久性を両立した構造体とします。
屋根 各柱から同心円状に張り出す平板スラブは柱頭のキャピタルプレートにより軽量化しつつ、直径4.6~2.4mの円盤が連続的に接合することにより柱の水平応力を緩和します。



支柱 無垢の鉄骨柱を使用。φ150の柱で軽快な構造体とします。

基礎 6本の柱をつなぐ梁と布基礎で構成します。施工が容易な単純な基礎形状でコスト管理と工期短縮を図ります。



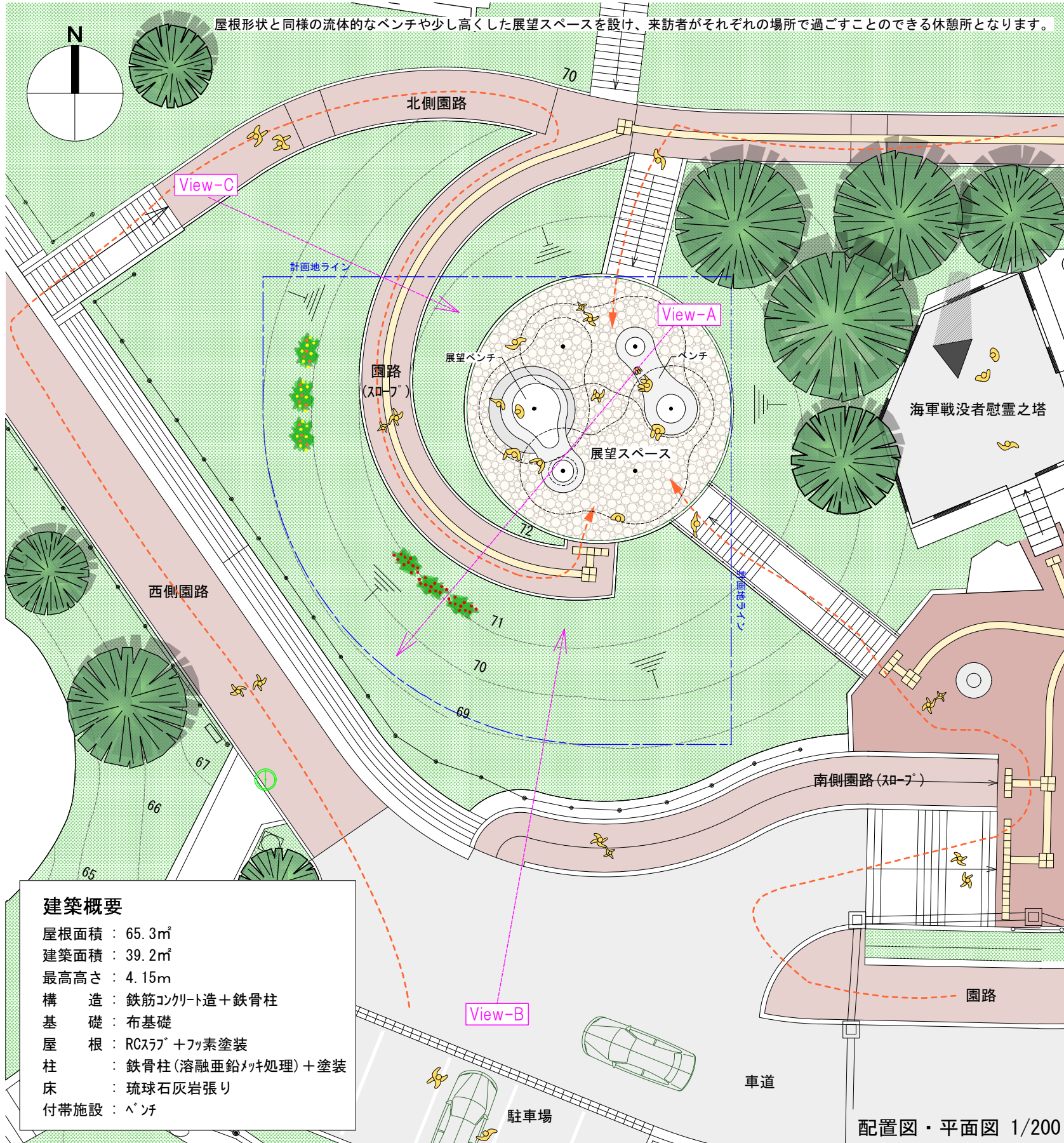
バリアフリーでオープンな平面計画

高台のほぼ中央に位置し、芝に覆われた丘の上にある展望台へは階段やスロープを利用し、3方向からアクセスが可能です。様々な利用者を受け入れるため、バリアフリー化された公園の施設計画に沿った休憩施設であるべきだと考えました。展望エリアは既存のままフラットにし、休憩施設も広い溜まり場を確保しながら来訪者がそれぞれ過ごせるようなベンチと大きな陰をつくる屋根をかけます。屋根下にいながら周囲の街並みが全方位眺められるよう、水平方向は死角をつくらぬ細い柱で屋根を支えます。

屋根のシンボル性と形態について

展望台は周囲から約5mほど高く、どこからでも視認できます。提案する休憩施設は、この場所のシンボルになるような立ち姿が望ましいと考えました。煙のように流体的なカタチをした3枚の屋根は、昔「火番森」から上げていた『狼煙』をイメージしており、螺旋状に重なり合うことで浮遊感のある軽快な造形にします。屋根の隙間からは空が見え、風が通り抜けます。涼しげな屋根は大きな陰をつくり、来訪者がゆっくりと周囲の風景を眺めながら過ごすことのできる環境をつくります。

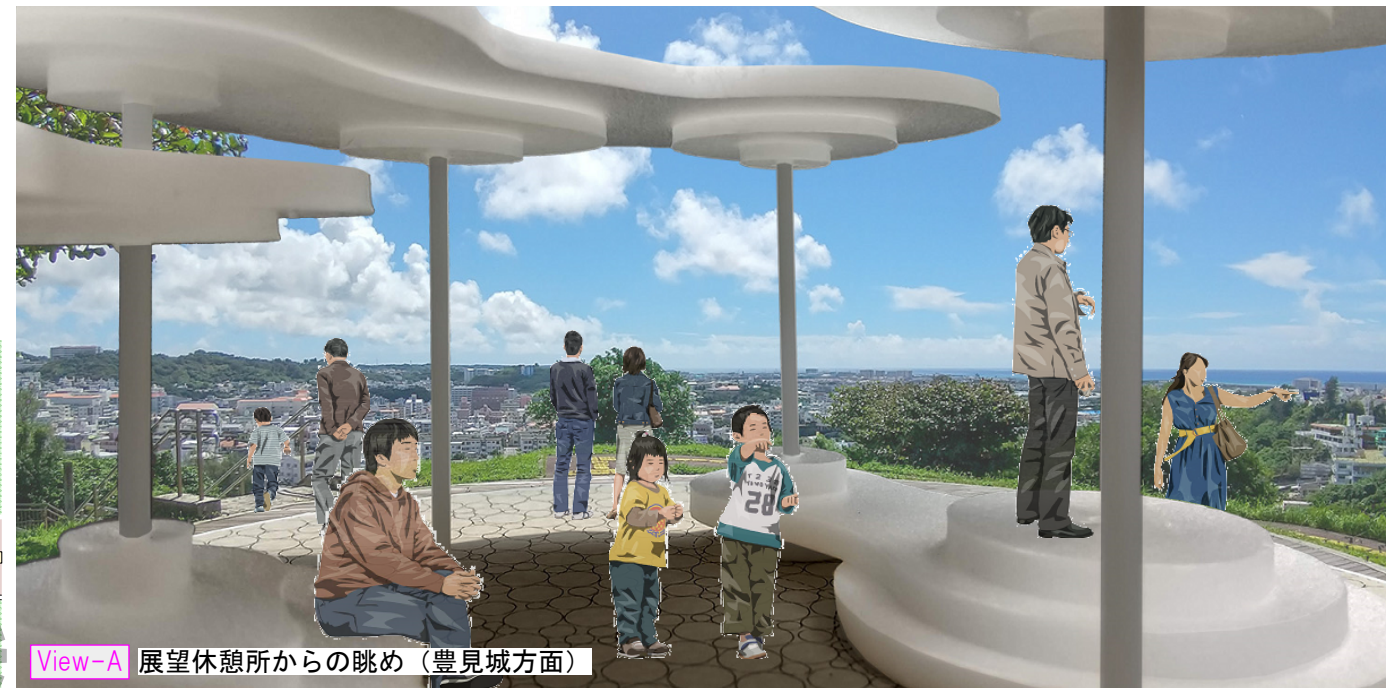
屋根形状と同様の流体的なベンチや少し高くした展望スペースを設け、来訪者がそれぞれの場所で過ごすことのできる休憩所となります。



建築概要

- 屋根面積 : 65.3㎡
- 建築面積 : 39.2㎡
- 最高高さ : 4.15m
- 構造 : 鉄筋コンクリート造+鉄骨柱
- 基礎 : 布基礎
- 屋根 : RCスラブ+フッ素塗装
- 柱 : 鉄骨柱(溶融亜鉛メッキ処理)+塗装
- 床 : 琉球石灰岩張り
- 付帯施設 : ベンチ

配置図・平面図 1/200



View-A 展望休憩所からの眺め(豊見城方面)



View-B 駐車場から展望台を見上げる



View-C 北側園路から展望台を見上げる